

アーカイブ No.5 馬荷

※アーカイブとは、重要記録を保存・活用し、未来に伝達することです。

大方・馬荷地区は、国道56号から蛸瀬川沿いに5km程北に入った下馬荷、中馬荷、福堂の3地区を合わせた地域です。谷あいの開けた土地を利用し、主に農業を生業にして来ました。

大師堂



福堂にはお大師さん(弘法大師)のお堂があり、昔から地域でお祀りされています。



村祭り

夏と秋には馬荷地域三社の氏神様が八幡宮に集い祭りが行われます。4、5百年も前から伝わりと言われる神踊り(子踊り)が奉納されます。



七立栗

弘法大師が残したと言われる“七立栗”。七立栗は馬荷で山焼きしていた後に自生し、焼かれる事で幹が大きくなり、 “矮性”の特質を保つために、人の手を必要とした作物です。現在は切り枝で観賞用として本州方面に出荷もしています。(七立栗生産組合のパンフより)



八幡宮

明治の頃は馬荷村として一つの村でした。三組の氏神、下馬荷「島神社」、中馬荷「八幡宮」、福堂「須賀神社」があり、生活の支えとして、村民の心の統一、娯楽等が信仰によって培われて、それらは今も受け継がれています。

弘法大師伝説

「昔お大師さんが四国遍路の途中に馬荷の山中で迷い、炭焼きの夫婦に助けを求めたと。貧しいながらも心を込めたおもてなしを受け心を打たれて去っていったと。その後、裏山に年に7回も実を付ける栗の木が沢山生えたそう。

また杖を立ててあった所には冷泉が湧いたそう。



馬荷温泉(冷泉)

馬荷は蛸瀬川支流の川原に温泉(冷泉)が湧き出ています。明治の頃は「馬荷温泉」として湯屋が開かれた時期もあったそうです。今は汲み上げ場を県道わきに移設し、地区利用者も増えました。



編集後記

まだ猛暑が残る中での9月議会でした。温暖化による気候変動は毎年全国どこかで豪雨災害が絶えず起こっています。今年も町内でも佐賀保育所で園児の帰宅をボートで運ぶという冠水被害がありました。

日常ではまだまだ続くコロナ禍での暮らしです。こんな時こそ、自己責任が厳しく問われる(自助)のではなく、皆で助け合い、支え合う暮らしと政治(公助)の力が求められます。

これは大西前町長の「一人も取り残さない政治」であり、この思いは町民の中に根付きつつあります。松本新町長の下でも引き継がれ、新たな船出と共に漕ぎ出されることでしょう。(宮地 葉子)

議会広報常任委員会

- | | |
|-------|-------|
| 委員 長 | 浅野 修一 |
| 副委員 長 | 宮地 葉子 |
| 委員 | 澳本 哲也 |
| 同 | 中島 一郎 |
| 同 | 濱村 美香 |
| 同 | 宮川 徳光 |

黒潮町 議会だより・議事録は、黒潮町ホームページよりご覧になれます。

<http://www.town.kuroshio.lg.jp/>→黒潮町の紹介→議会→議会だより→バックナンバー

■発行人 高知県黒潮町議会
 ■編集 黒潮町議会広報常任委員会
 ■住所 高知県幡多郡黒潮町入野 5893

■発行日 令和2年11月1日

TEL(0880)43-2111(代)・(0880)43-2831(直)